



未来が生まれる、「場」をつくる。

Sustainability Report

コングレスサステナビリティレポート





代表取締役社長
武内 紀子

MICEを通じて社会課題解決に貢献

コングレは「よい仕事をする」「地域・社会に貢献する」「いきいきとした社員の集合体」の3つを基本理念として掲げています。

1990年の創立以来、当社は一貫してコミュニケーションに関わり、人と人とのつながり、相互理解が少しでも進むよう演出し、コーディネートする仕事をしてきました。

私たちは事業として、「MICE」*と総称されるコミュニケーションの「場」の創造に携わっています。社会課題解決のための国際会議の運営、医学系学会をはじめとする学術・研究の発表の場の支援、多様な産業の振興、MICE施設・文化施設などをコアとしたまちづくり。そして、そのために欠かせない人々の交流を促進します。

コングレは新しい時代を拓くためのコミュニケーションや、英知が生まれるコミュニケーションの「場」をさまざまなかたちで支え、事業および社員の持続可能な成長を促していきます。そして、学術や産業の発展、社会課題の解決に寄与し、SDGsの掲げる「誰一人として取り残さない」社会の実現に貢献します。

また、経団連の提唱する「Society 5.0 for SDGs」の理念に賛同し、新しい時代の新しいコミュニケーションの「場」の創造にチャレンジすることによって、人類の健全かつ持続的な発展に貢献していきます。

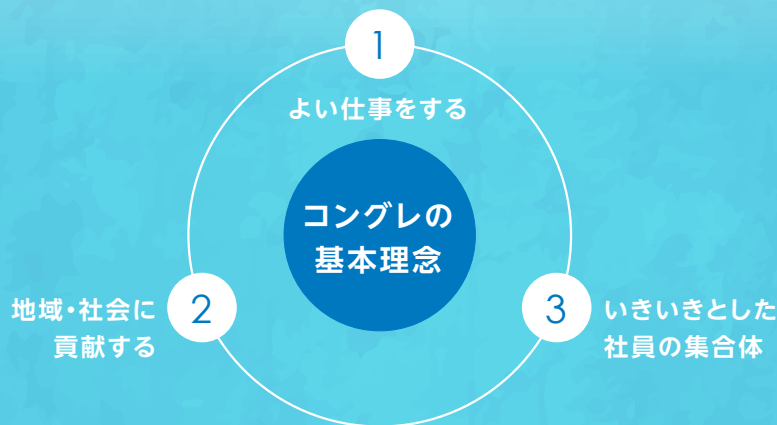
* MICEとは、企業等の会議(Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行(Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議(Convention)、展示会・見本市、イベント(Exhibition/Event)の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称です。
(出典:観光庁ウェブサイト)

未来が生まれる、「場」をつくる。

Comprehensive MICE Business



Congrèsのロゴは、「みんなで一緒に」という“Co”を意味し、
3本のラインは、Congrèsの3つの基本理念を表現しています。
そして、その先にある●は私たちの大切な星・地球。
Congrèsが目指した国際的な事業展開を示しています。



Contents

● トップメッセージ	1	● 重要課題1 MICEの場の創造を通じた社会課題解決の支援	9~10
● 企業理念	2	● 重要課題2 施設運営を通じた持続可能なまちづくりの支援	13~16
● Congrèsのサステナビリティ	3~4	● 重要課題3 会社と社員が共に成長できる持続可能な職場環境づくり	17~20
● SDGsへのコミットメントと重要課題(マテリアリティ)の特定	5~8	● 重要課題4 公正な業務慣行・対話を通じた積極的なパートナーシップの構築	21~22
		● G7広島サミットでのCongrèsの取り組み	11~12

持続可能な交流の場の創造・促進によって社会課題解決に貢献します

コングレが取り組むサステナビリティ

株式会社コングレは、コンベンション（国際会議・医学系学会など）のプロデュース、MICE施設、文化・観光施設など全国で約90の施設運営事業を主軸に、展示会・イベントの主催、調査コンサルティングなど、様々な分野で専門的なサービスを提供しています。

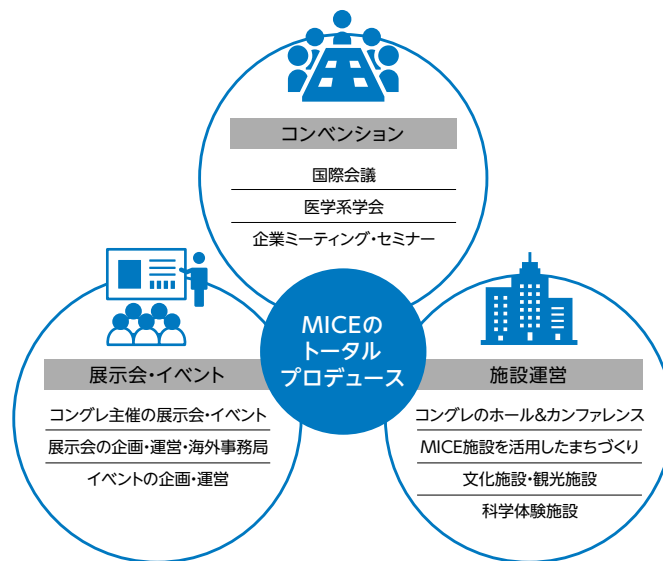
社会課題解決のための国際会議や、学術・研究の発表、関連産業の振興。そして、人々の交流を促進するのが私たちの役割です。

コングレは、MICEビジネスの先進企業として、これまでの豊富な実績と最新の技術を組み合わせ、人と環境にやさしい持続可能なMICEの企画・提案をはじめ、幅広い側面から多様な支援を提供しています。サステナブルMICEを通じて社会課題の解決に寄与し、SDGsの掲げる「誰一人として取り残さない」社会の実現に貢献していきます。

未来が生まれる、「場」をつくる。

Comprehensive MICE Business

株式会社コングレは、MICEを通じて社会課題解決・地域活性化に取り組み、サステナブルな社会の実現を目指しています。



◎レポートの目的と重要性

このレポートでは、コングレのサステナビリティへのコミットメントと具体的な取り組みに焦点を当て、これらを共有することで、ステークホルダーの皆さまとの信頼関係を築き深めることを主な目的としています。同時に、持続可能な未来を実現するための戦略や取り組みの共有が、社会課題の解決に向けたイノベーションに積極的に貢献することを目指しています。これらの活動が、MICE業界全体におけるサステナビリティ意識の向上や新たな価値の創造、社会課題解決に向けたイノベーションの促進につながることを期待しています。

MICEにおける持続可能性

コングレは、MICEの持続可能性のため、以下に重点を置きながら様々な取り組みを推進しています

1 国際規格に沿った持続可能なMICEの企画立案と遂行

ISO20121* (イベントサステナビリティ・マネジメントシステム) 認証の適切な運用を通じて、具体的な目標とモニタリングを実施し、持続可能なMICEの企画・運営を支援します。また、関係者や参加者、地域とのコミュニケーションを重視し、積極的に行うことで、理解と共感を促進します。



3 伝統文化や地域アイデンティティの尊重

持続可能な観光開発を推進し、地域の歴史と文化を尊重しながらイベントに取り込むなど、地域経済やアイデンティティの強化に貢献します。地域コミュニティとの連携を強化し、教育プログラムや啓発活動などを通じて、地域の文化的な豊かさに寄与します。



2 地域貢献と経済効果の最大化

地域との連携によりMICEイベントが地域にもたらすポジティブな影響の最大化を目指すと同時に、ネガティブなインパクトの最小化に配慮します。地域経済の活性化、雇用の促進など経済効果のみならず、地域コミュニティとの連携を通じて持続可能な発展に寄与します。



4 環境負荷の軽減

エネルギー効率化やリサイクルを推進し、環境負荷を低減します。再生エネルギー利用の増加や関係者の移動宿泊、物品の移動に伴うCO₂排出削減、廃棄物の削減などネガティブなインパクトの最小化に努めます。同時に、生物多様性の保全、自然保護を通じて、環境保護に貢献します。



国際規格に基づいたサステナブルMICEの推進

コングレは、2023年1月にISO20121* (イベントサステナビリティ・マネジメントシステム) 認証を取得しました。既に取得していたISO14001 (環境マネジメントシステム) と合わせて、両認証をダブル取得した企業は日本初です。

認証の適切な運用を通じて、国際規格に基づいたサステナブルなMICEをさらに推進し、産業の持続可能性の向上や社会課題解決に向けて努めています。



*ISO20121とは、イベント運営における環境影響の管理に加えて、その経済的、社会的影響についても管理することで、イベント産業の持続可能性をサポートするためのマネジメントシステムです。東京オリンピック・パラリンピックにおいても適用され、2025年に開催される大阪・関西万博においても導入が検討されています。



事業および社員の持続可能な成長を促しながらSDGsの掲げる 「誰一人として取り残さない」社会の実現に貢献します

コングレの重要課題(マテリアリティ)の特定

社会が直面する課題に対し、事業活動を通じてどのように貢献するかが大きく問われています。コングレは、将来にわたって社会と共に成長し、事業を通じて社会課題の解決に貢献するために、自らの強みを生かして優先的に取り組むべき4つの重要課題(マテリアリティ)を特定しました。

特定においては、SDGsの17の目標と169のターゲットを指針に、全事業部が参加した各部門へのヒアリングを通じて課題や活動を抽出し、経営理念や中期経営計画との整合性を確認しました。これらの取り組みは、事業および社員の持続可能な成長を促進するうえで重要な位置付けであることを、取締役および経営幹部、社員を含めた会社全体で認識し、推進しています。

私たちのSDGs宣言

コングレは、事業活動を通じて、国連の持続可能な開発目標(SDGs:Sustainable Development Goals)を支援しています。



コングレのSDGs宣言

コングレ(グループ)は、事業および社員の持続可能な成長を促しながら、サステナブルなMICEの場の創造・促進によって社会課題解決に寄与し、SDGsの掲げる「誰一人として取り残さない」社会の実現に貢献します。

4つの重要課題(マテリアリティ)

コングレの重要課題は、主軸事業であるコンベンションおよび展示会・イベント事業、施設運営事業に関連する2つの課題と、人材育成や職場環境づくり、コンプライアンスやパートナーシップの構築など、経営基盤として全社で取り組むべき2つの課題で構成されています。事業活動に関連する課題と経営基盤としての課題の両面からアプローチすることで、サステナビリティ活動の経営への統合を目指しています。

事業活動における重要課題

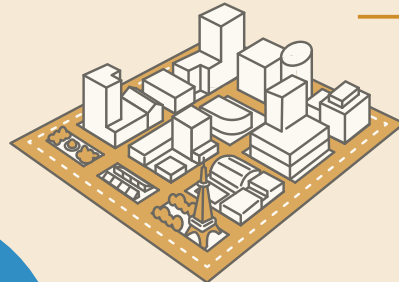
重要課題

1 MICEの場の創造を通じた社会課題解決の支援



重要課題

2 施設運営を通じた持続可能なまちづくりの支援



MICEを
活用した
社会貢献

重要課題

3 会社と社員が共に成長できる持続可能な職場環境づくり



重要課題

4 公正な業務慣行・対話を通じた積極的なパートナーシップの構築



経営基盤としての重要課題

重要課題(マテリアリティ)とSDGsの関連

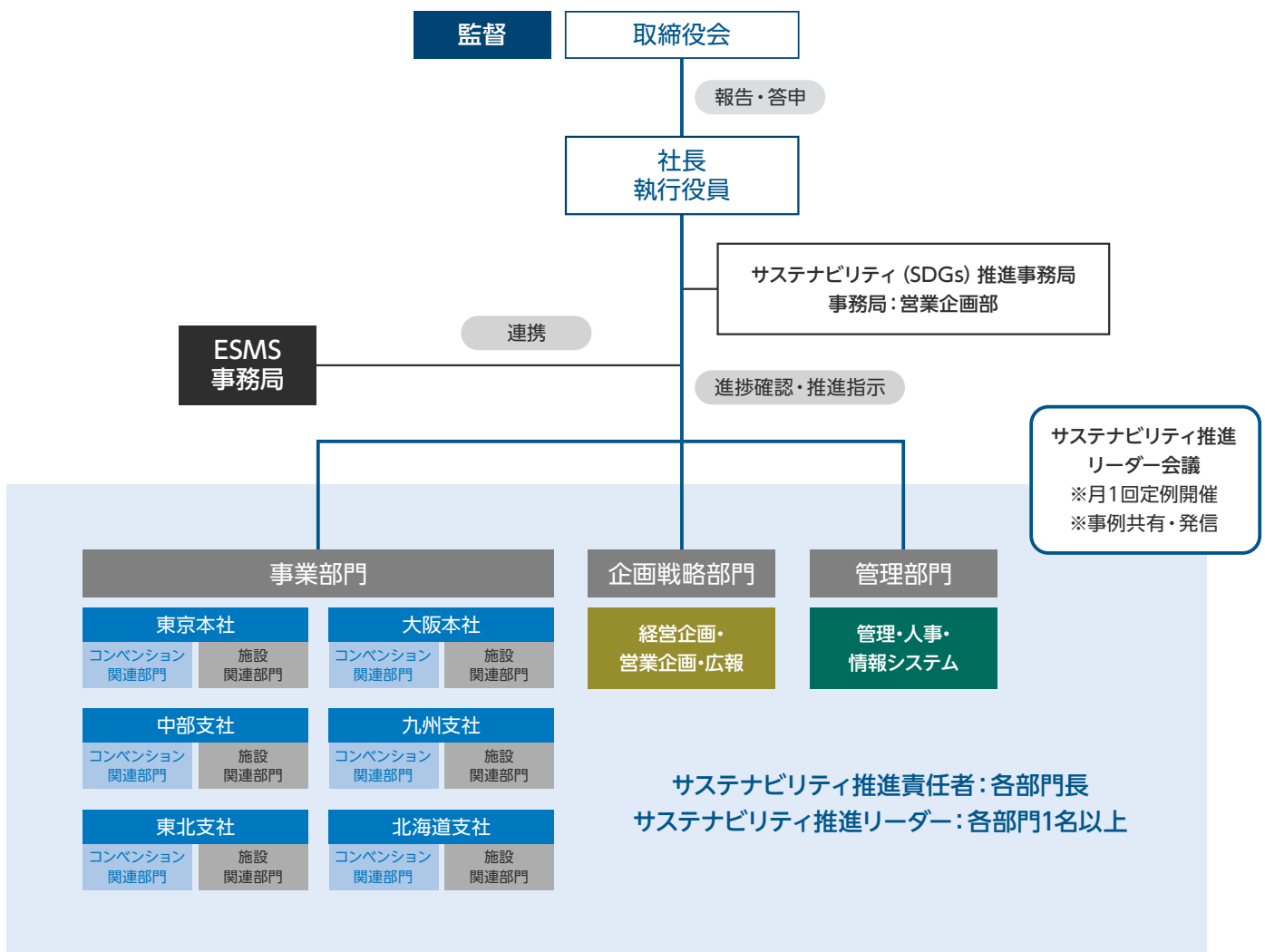
4つの重要課題(マテリアリティ)とSDGsに掲げられている17の目標及び169のターゲットとの関係を以下の表のとおり整理しています。サステナブルMICEの推進、施設運営を通じた持続可能なまちづくりの支援につながる各種施策やサステナブル経営を通じて、SDGsを支援しています。

	重要課題	関連するSDGsのターゲット	
事業活動における重要課題	1 MICEの場の創造を通じた社会課題解決の支援	 3.8 ユニバーサル・ヘルス・カバレッジへの貢献  8.9 雇用創出など、地域の未来につながる観光業の推進  13.3 気候変動の軽減、正しい知識と対応能力の普及	 4.7 SDGs達成のために、必要な知識とスキルの普及  12.5 廃棄物の発生防止、3R等での大幅削減  12.8 持続可能なライフスタイルの啓発  17.16 多種多様なパートナーシップでSDGsを推進  17.17 効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップの推進
	2 施設運営を通じた持続可能なまちづくりの支援	 4.5 教育や職業訓練を平等に 4.7 SDGs達成のために、必要な知識とスキルの普及  11.7 安心して利用できる緑地や公共スペースの普遍的提供  13.3 気候変動の軽減、正しい知識と対応能力の普及	 8.9 雇用創出など、地域の未来につながる観光業の推進  12.5 廃棄物の発生防止、3R等での大幅削減  12.8 持続可能なライフスタイルの啓発  17.16 多種多様なパートナーシップでSDGsを推進  17.17 効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップの推進
経営基盤としての重要課題	3 会社と社員が共に成長できる持続可能な職場環境づくり	 5.5 あらゆる意思決定に男女が平等に参加できる社会へ  10.3 差別的な法律・政策・慣行をなくし、機会均等を実現	 8.5 雇用平等と労働環境良化の推進
	4 公正な業務慣行・対話を通じた積極的なパートナーシップの構築	 10.3 差別的な法律・政策・慣行をなくし、機会均等を実現  16.5 あらゆる形態の汚職や贈賄を大幅に減少	 持続可能な消費・生産形態を確実に  17.16 多種多様なパートナーシップでSDGsを推進  17.17 効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップの推進

推進体制

全部門に1名以上のサステナビリティ推進リーダー（チーム）を配置。部門長を推進責任者、社長をトップとした推進組織を組成し、全社体制で取り組みを進めています。

各部門では、年度毎に重要課題に沿った取り組み事項およびKPIを独自に設定し、事業部内で責任をもって推進する体制としています。これにより、事業特性や地域のニーズに合わせた幅広い取り組みが生まれています。同時に国際マネジメントシステムを適用し、その結果を数値化することで、サステナビリティ活動の経営への統合と効果の最大化を目指しています。



コングレが携わるコンベンション開催件数は年間240件、参加人数約122万人 多くの人が集まるMICEの場を活用した取り組みを推進しています。



写真出典:「G7広島サミット」公式Webサイト

MICEの開催には多くの資源が消費されます。コングレは、環境に配慮した調達や情報通信技術を活用した省資源策、脱炭素、地産地消などサステナブルMICEにつながる各種施策を推進しています。環境や社会、経済のバランスがとれた持続可能なMICE開催の支援を通じて、資源の循環、開催地域活性化などにも寄与します。



コンベンション開催件数
年間 **240** 件

参加人数
約 **122** 万人

私たちの取り組み指針

- 国際会議や学術集会、展示会など、多様なMICEの開催支援や企画・運営を通じて、交流を促進し、社会課題の解決や新技術・ビジネスの発掘、イノベーションとパートナーシップの創出を促進します。
- 環境に配慮した調達、省資源化、脱炭素化、地産地消の推進など、サステナブルなMICE開催につながる取り組みを促進し、環境、社会、経済のバランスが取れた持続可能なMICE開催を目指します。
- MICEの場を活用した啓発や人材育成を通じて、開催地域の地方創生や国や都市のブランド力の向上に貢献します。

主なサステナブルアクション

1 学術集会やイベント開催時の食品廃棄削減(フードロスゼロ)の取り組み

フードロスとは、まだ食べられるにもかかわらず廃棄されてしまう食品のこと。大規模な学術集会などでは、参加者にお弁当を配るランチオンセミナーやイブニングセミナーなどがあり、多数のお弁当を調達しますが、当日の参加者数の変動でフードロスが発生しやすい、という問題がありました。

コングレでは予約制を全社的に導入。同時に、ミールクーポンを提案するなど、食品廃棄削減に努めています。



2023年度はコングレが携わる

67.3%の会議や

イベントなどで予約制導入
(22年度は66.3%)

その他、容器の脱プラスチック
なども進んでいます。

SDGsセレクトメニューO'BENTOH

コングレではフードダイバーシティへの配慮、オーガニック食材の活用、ゴミの資源循環など持続可能性にこだわった独自のお弁当メニューを開発しました。誰もが美味しく楽しく、そして地球にもやさしい持続可能な食事を提供することを目的に、C'Sケータリングサービス株式会社の協力のもと実現したものです。様々な学術集会やイベントで採用いただいています。





2 サステナブルMICEの実践— マネジメントシステムを活用したデータ化の取り組み

コングレでは、「**コングレサステナブルイベント実践ガイドライン**」を策定し、コングレが提供するコンベンション、展示会・イベントにおける企画・運営サービスに適用しています。ガイドラインに基づいたチェックリストで結果を数値化し、ISO20121のマネジメントシステムに組み込んで定期的に効果を評価。このデータの適切な分析と活用を通じて、サステナブルMICEのさらなる促進を目指しています。

※ISO20121:イベントのサステナビリティに関する国際マネジメントシステム

私たちが携わるコンベンション・イベントでは…

●廃棄物削減の取り組み

リース・レンタル品の活用、リサイクルの推進



●責任のある調達

資源の効率利用、環境負荷に配慮した調達、エシカル消費の推進



●紙資源削減の取り組み

デジタルサイネージやアプリの活用、電子化の推進



●移動に伴うCO₂排出削減の取り組み

公共交通機関の利用促進・輸送時の配慮



3 開催地にレガシーを— 地域と一体となった取り組み

MICEの開催を通じた開催地の地方創生や人材育成への貢献を目指し、地域の皆さまと協力して様々なイニシアティブを展開しています。MICE開催が地域のPRやブランディングに繋がるような施策、MICE人材育成講座の開催、キャリア機会の創出、地元企業とのコラボレーションなど、様々な方向から多角的に持続可能な地域づくりにつながる施策を推進しています。



「出島メッセ長崎」の開催に合わせて長崎大学経済学部で開催された「MICE人材育成プログラム」。MICE産業に関する知識やスキルを提供し、地域活性化にMICEを活用する人材の育成を目指しました。



約57万人の参加者を集めた「第31回日本医学会総会 2023 東京」(2023年4月開催)。会場となった東京丸の内・有楽町エリアでは三菱地所株式会社、大丸有エリアマネジメント協会(リガーレ)をはじめ、ビジネスイベントを街ぐるみで展開する「都心型エリアMICE」の誘致を目標に掲げているDMO東京丸の内のサポートを受け、エリア全体で医療・健康・ウェルビーイングをテーマにした地域イベントを多数開催。都心型エリアMICEのモデルケースにもなりました。

4 みんなが参加できるコンベンションづくり— 多様性への配慮がイノベーションにも

コングレでは、すべての参加者が安心して交流できるMICEの場の創造を支援しています。性別、年齢、人種、民族、宗教、障がい、文化的背景など異なる特性を持つ多様な参加者を尊重し、その多様性に配慮。祈祷室や特別な食事の提供、授乳室の設置など、多様なニーズに対応する各種の取り組みが、新たな協創やイノベーションのきっかけにもなっています。



「透析医療のSDGsを求めて」をテーマに開催された第67回日本透析医学会学術集会・総会では、環境配慮のほか、男女参画を掲げたセッションなどダイバーシティに配慮した多様な取り組みが行われました。



日本人類遺伝学第67回大会では、身体が不自由などの理由で外出が困難な方が分身ロボット「OriHime」を遠隔操作し、カフェでサービスを提供する「分身ロボットカフェ@JSHG2022」が実現。医学系学会では初の試みとなりました。

G7広島サミットでのコングレの取り組み

5月19日～21日の3日間、「G7広島サミット」が開催されました。グランドプリンスホテル広島をメイン会場に、広島平和記念公園、広島平和記念資料館、厳島神社などで様々なプログラムが行われ、コングレは、サミット会場設営・会議運営全般、配偶者プログラム、政府報道関連のサポート業務等を担当。併せて、国内外の報道機関が世界に向けて情報発信するための活動拠点「国際メディアセンター（IMC）」の会場設営および運営業務も担当しました。IMCでは、フードロスやCO₂排出削減などサステナブルMICEにつながる取り組みや、地域のレガシー創出に焦点を当てた、様々な取り組みが行われ、それらの取り組みは全世界に発信されました。

※IMCはコンソーシアム(共同企業体)で担当



写真出典:「G7広島サミット」公式webサイト

ダイニングなどで地元食材と日本の食文化をアピールーフードロス削減の取り組み

集結した世界のメディアに開催地広島での食の豊かさを最大限にアピール。環境に配慮したカタラーリで提供するとともに、食の安全やこだわり、歴史もQRコードで紹介することで食文化の理解促進に努めました。また、フードロスの削減施策として、地元の企業と協働して調理過程で出る端材や食べ残しを土にリサイクルし、地元の農家や牧場に寄付させていただき取り組みや、フードバンクに寄付する取り組みも併せて実施。多くのメディアにも取り上げていただきました。



「瀬戸内さかな」の魅力を実演でお届け



広島県三次市の「せとうちコンポスト」のご協力のもと、調理過程で出る端材や食べ残しを広島県の浄水場で排出される天然泥に混ぜ、栄養価の高い土にする取り組み。土は地元の牧場や農家へ寄付され、この取り組みは世界で紹介されました。

広島県産の食材や材料を細かく記載したボードを料理ごとに設置。ヴィーガンやハラルにも配慮しました。

メディア専用ワーキングスペースのおにぎりやパン、お弁当、カップ麺、ドリンク、スナック菓子などは終了後、県内のフードバンクへ寄付され、困難な状況の人々の支援にお役立ていただきました。

世界へ発信された平和への思いと最新技術



30以上のコンテナハウスでは、企業や団体がカーボンニュートラル実現に向けた取り組みなどを展示(於:サンクンガーデン)



企業や団体による「水素」に関する技術の展示コーナー(於:武道場)

日本政府・地方自治体・企業・団体による広報展示では、平和と持続可能な未来の構築に向けた取り組みや日本の伝統文化・食の魅力が世界に発信されました。原爆ドーム内部のVR体験やカーボンニュートラル実現に向けた取り組みの展示、茶道体験、広島和牛や牡蠣の試食などが行われ、世界中の報道機関やメディアにリアルタイムで発信されました。日本の文化や技術とともに平和への強いメッセージが広く伝えられました。

移動交通での環境配慮の取り組みー バイオディーゼル燃料の導入

メディア関係者には公共交通機関の使用を促進することで、交通渋滞やCO₂排出削減を目指したほか、深夜帯やラッシュ時間帯に限り運行したメディア専用バスには、次世代バイオディーゼル燃料を実証導入しました。バイオディーゼル燃料は、地上の生物資源から製造され、大気中の二酸化炭素を再利用する仕組みを持っています。バイオディーゼル燃料車の早期実装の支援は、化石燃料の使用量削減につながり、CO₂排出の削減による環境負荷軽減に資する取り組みとなりました。



株式会社ユーグレナが製造する次世代バイオディーゼル燃料「サステオ」を使用したシャトルバス。CO₂排出の削減や環境負荷の軽減が期待されます。

サミット開催のレガシーへ次世代につなぐアフターサミット見学会

サミット閉幕後、県内小・中・高校生や地元在住の方々へ、関連施設の一部を公開する「アフターサミット見学会」（外務省と広島サミット県民会議の共催）が開催されました。参加者はサミット講座を聴講後、メイン会合の会場からIMCへ運ばれた首脳会合の円卓と椅子に触れたり、政府広報展示や広島情報センターを見学したり、国際会議の現場を体験。報道で目にするのが多かったシチュエーションを実際に体験でき、貴重な経験になったとの声が多く聞かれました。



首脳会合で使用された円卓に座る子どもたち
写真出典:「外務省G7広島サミット事務局」公式X(旧Twitter)



サミットで世界に発信された内容を見学する子どもたち

関係者の現地滞在もサステナブルに

G7広島サミットの開催を支えた関係者は1日あたり数万人にのぼるため、サミット期間中の市内の宿泊施設は満室が見込まれました。そこで、IMCの運営業務に携わる社員は、マンションの空室を借りて業務にあたりました。準備期間から終了まで、1か月以上の滞在になる社員も。生活に必要となり購入した備品は、退去時に広島県社会福祉士会へ寄付。ホームレスや自立した生活が困難な方々の生活サポートにお役に立てました。



広島県社会福祉士会に寄付した物資

コングレが運営に携わる約90施設の年間来場者数は約1350万人 そこで働く皆さまとともに、各地域に根差した取り組みを推進します



コングレはMICE施設、文化施設、観光施設を合わせて、全国約90か所の施設運営に携わっています。各施設での環境保護の取り組みをはじめ、コンサート、講演会、地域イベントなどの開催を通して、地域の賑わい創出や地方創生などに取り組んでいます。コングレはそれぞれの地域の一員として、まちづくりの核となる施設の管理運営に参画し、持続可能なまちの魅力、ブランドの向上や人材育成に寄与します。



全国で運営する施設

約 **90** 施設

年間来場者数

約 **1,350** 万人

私たちの取り組み指針

- 担当するMICE 施設、文化・観光施設では、環境負荷低減の取り組みを推進し、地球や地域にやさしい持続可能な施設運営を目指します。
- ユニバーサルデザインとアクセシビリティを推進し、環境と人の両方にやさしい施設づくりを推進します。
- 科学館事業や交流創出施設の管理運営を通じて、SDGsの普及や世代を担う人材の育成を目指します。
- コンサート、講演会、地域イベントなどの企画・開催を通して、情報発信拠点として機能し、地域の賑わいや交流の創出、人材の育成に寄与します。

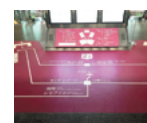
主なサステナブルアクション

1 MICE施設のサステナビリティの取り組みー地域の交流拠点として人と環境の双方にやさしく

ユニバーサルデザインの導入やアクセシビリティの向上に資する取り組みを積極的に推進し、地域の交流の中心となる施設としてすべての利用者の皆さまが施設を快適に利用できる施設環境整備を積極的に進めています。同時に、LED化等による省エネ施策やエシカル調達を推進などを通じて、地球環境にもやさしい施設づくりを促進しています。



コングレが経営するナレッジキャピタル コングレコンベンションセンターでは、再生・リサイクル性の高いアルミ缶飲料を推奨するなど、ペットボトルやゴミの削減に取り組んでいます。



指定管理者を務める名古屋国際会議場は、名古屋市より、なごやSDGsグリーンパートナーズの最高ランクである「認定優良エコ事業所」の認定を受けています。施設内のサインを大幅にリニューアルし、ユニバーサルデザインを取り入れたピクトグラムを採用するなど、環境とアクセシビリティに配慮した施設整備を推進しています。

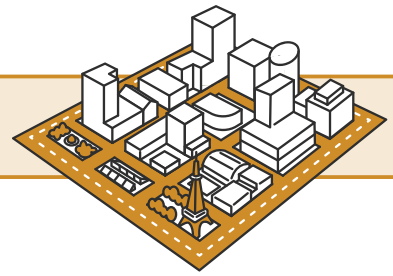
クラダシ×MICE施設

コングレスクエア日本橋では、まだ食べられるにも関わらず捨てられてしまう可能性のある食品を取り扱うクラダシと協業。MICE施設としてフードロスに取り組むとともに、持続可能なビジネスモデルを支援し社会へ貢献することを目指しています。

Kuradashi
とは?

フードロス削減を目指すショッピングサイトです。まだ食べられるにもかかわらず捨てられてしまう可能性のある商品などを、おトクに販売しています。売上の一部を環境保護・災害支援などに取り組むさまざまな社会貢献団体への寄付やクラダシ基金として活用し、SDGs17の目標を横断して支援しています。





2 子どもたちに学びの場を — 科学館事業を通じた次世代育成につながる取り組み

コングレは全国6所の科学館を指定管理者として管理運営しています。子どもたちに学びの場を提供するとともに、科学への興味を育む取り組みや、環境保護、サステナビリティ、SDGsの普及につながるイベントを積極的に開催しています。科学館ならではの学びのきっかけを提供しながら、共に考え、次の行動につながる機会を創出することで、持続可能な社会の実現を目指しています。



横浜こども科学館では、サイエンスショーのほか様々なイベントを開催し、地域の子どもの学びの場になっています。海を漂流していたブイをカラーリングしてアート作品にするワークショップでは、楽しみながらきれいな海を守るためにできることを考える機会に。海洋汚染や生物の多様性の学びにもつながりました。



千葉市科学館で秋の企画展「あれも？ これも？ 知ってるつもりなSDGs」を開催。身近にあるモノに注目しSDGsを知ることを目指した千葉市科学館オリジナルの企画展です。



神戸市立青少年科学館(バンドー神戸青少年科学館)の「第3回ポートアイランドサイエンスフェスティバル」では、TEAM EXPO 2025 共創チャレンジ*として「コングレ presents SDGsをさがせ!クイズラリー」を出展。楽しみながらSDGsについて考える機会に。



*共創チャレンジとは、大阪・関西万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」を実現し、SDGsの達成に貢献するための参加型プロジェクト「TEAM EXPO 2025」プログラムに参画するためのアクションです。コングレは、共創チャレンジに5つの取り組みを登録し活動しています。

コングレの科学体験施設が誕生：IMAGINUS(イマジナス)

コングレは、東京都杉並区から旧杉並第四小学校跡地を活用した「次世代型科学教育の拠点整備・運営事業者」として選定され、共同プロジェクトを開始しました。そこから誕生したのが、直営の科学体験施設「IMAGINUS(イマジナス)」です。「IMAGINUS」は、楽しい体験を通じて科学への興味を喚起する場所として、2023年10月にオープンしました。訪れる人々が科学との新しい関係性を発見し、「Science in Me」(わたしのなかの科学)を感じていただけることを願っています。



3 地域で働くメンバーとともにー施設から始まる持続可能なまちづくり

コングレが携わる文化施設・観光施設では、施設で働くメンバーとともに、地域の活性化や持続可能なまちづくりを支援しています。地域への感謝の気持ちを込めて行う、施設周辺のごみ収集活動「グリーン作戦」を、全国の施設で開催中。地域コミュニティの強化や、賑わい、連携の創出につながっています。同時に施設を中心に、地域の人材育成や雇用創出につながる様々なイベントを開催。施設で働くメンバーを通じて地域への貢献活動を通じて、地域社会の持続可能な発展を支援しています。

各地の「グリーン作戦」



すみだグリーン作戦



日本橋グリーン作戦



羽田グリーン作戦



札幌グリーン作戦

「グリーン作戦」はチームワークや協力の精神を育む効果も。チームビルディングやコミュニケーション促進施策として研修にも取り入れています。この取り組みはコンベンション開催時の会場周辺の清掃活動にも発展。ゴミ拾いを通じた新たなパートナーの創出にもつながっています。

子どもたちに向けたお仕事紹介プログラム



名古屋国際会議場では、小学生を対象に館内探検ツアーなどを開催。科学館で参加している「おしごとけんがく(企画:株式会社HIS)」では、プログラマーや科学館のお仕事をオンラインで紹介。未来を担う子どもたちが社会とつながり、様々な体験を通じて将来の選択肢の拡大につながる取り組みを進めています。

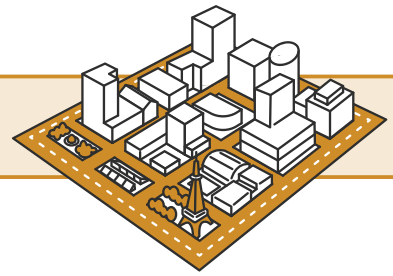
パートナーシップで体験機会の提供を支援：Sonoligo Future

Sonoligo Future とは、未来を担う学生達に文化体験の機会を提供する取り組みです。コングレは、全国の科学館などの文化施設を指定管理者として管理運営し、科学や教育・文化イベントを企画・実施しています。「子どもたちに体験機会を！」という思いを持つ両社が協働することで、経済的な理由で学校外での体験機会が限られる子どもたちも含め、多くの子どもたちが多様な体験を通じて創造力や想像力を豊かに育むことができるよう支援しています。



Sonoligo Futureとは、無料チケットで文化体験機会を提供する取り組みです。

Sonoligo Future は、音楽鑑賞・スポーツ観戦・美術館や博物館の鑑賞などの文化体験を通じて、子どもたちが可能性を広げることを応援する取り組みです。名古屋大学発のベンチャー Sonoligo社が提供する文化体験サブサービス「Sonoligo」から派生した子ども向けのサービスで、この取り組みの理念に共感した企業からの協賛のもとに、子どもたちへ様々な文化体験の機会を提供しています。



4 地域の連携を強化する取り組み— 持続可能性をテーマにしたイベントの開催

コングレが携わる地域の交流施設では、SDGsやサステナビリティをテーマにしたイベントを積極的に企画し主催しています。これらのイベントは、サステナビリティをキーワードに地域の連携を促進し、持続可能な未来に向けた協創環境の強化にもつながっています。

SDGsアクションフェスタ



2021年よりウェスタ川越で開催している「〜川越から地球を元気に〜SDGsアクションフェスタ2023」。子どもから大人まで楽しみながらサステナブルな行動について考え、実践するきっかけとなることを目的に開催しています。SDGsに取り組む企業や自治体、農業者、高等学校、幼稚園、福祉団体などが出展。ここでの交流や出会いが次のコラボレーションや地域連携に繋がっています。

キッズ未来体験EXPO



ポートメッセなごや(名古屋国際展示場)で主催した「キッズ未来体験EXPO」は、子どもの未来を応援するイベントとして、周辺地域の皆さまと連携しながら、新しい技術や様々な職業に触れることができる企画を用意。子どもたちが未来を考えるよい機会となりました。

5 地域の防災拠点として— MICE施設の安全対策

MICE施設は、地域の防災拠点としても重要な役割を果たしています。災害時に安全を確保するため、実践を想定した防災訓練を実施するほか、市民向けに防災・減災対策の普及啓発イベントを開催。地域コミュニティの安全を支えています。



名古屋国際会議場の防災訓練の様子。消防訓練では大規模災害を想定し、屋外消火栓を使用した放水訓練や図上訓練を実施。その他、地域の皆さまと共同して防災・減災のための避難訓練コンサートを開催。日々の防災活動に取り組んでいます。

コングレは、多様性を尊重し、誰もが活躍できる職場環境を目指しています。ウェルビーイングの向上に資する各種取り組みを通じて、会社と社員が共に成長する持続可能な環境を実現します。



コングレは「いきいきとした社員の集合体」を基本理念の一つとして掲げています。社員一人一人が生き活きと輝くために、設立以来、性別、年齢、職歴、国籍などの属性にとらわれることなく、誰もが活躍できる企業風土の実現を目指してきました。育児・介護など、ライフステージの移行に伴い、多様で柔軟な働き方が選択できるよう、様々な制度を整備しています。ウェルビーイングの向上に資する各種取り組みを通じて、会社と社員が共に成長する持続可能な環境を実現します。



私たちの取り組み指針

- 性別、年齢、国籍などの属性にとらわれず能力を発揮できる、働き甲斐のある職場づくりを推進し、多様性、包摂性、公平性（DE&I）を推進します。
- 階層別研修や社員満足度向上に資する各種施策を実施し、多様なキャリアの選択肢を広げるとともに、スキルアップや資格取得をサポートします。
- ライフステージの移行にも対応する多様で柔軟な働き方を推進します。
- 健康経営を促進し、ウェルビーイングの向上を支援します。

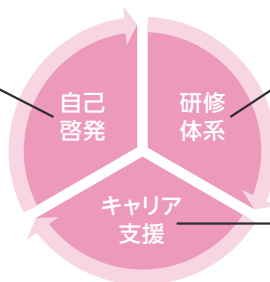
主なサステナブルアクション

1 未来を担う人材の育成ー人事制度改革とキャリア支援プログラム構築

コングレは2025年で創業35周年。時代の変化に適応し、新たな成長を遂げるために、2023年に人事制度の大幅な改革を行いました。コングレの理念を受け継ぎながら、未来を見据え、会社のさらなる成長を担う次世代リーダーや中核人材を育成する制度を整備。人材育成プログラムやキャリア支援制度も構築し、社員の能力向上と組織の発展を支援しています。

キャリアオーナーシップの推進

- ・e-learning 受講
- ・資格取得奨励
- ・外部セミナーの参加支援 など



個人的な資質・能力の開発

- ・共通研修
- ・階層別研修
- ・テーマ別研修 など

多彩なキャリアのサポート

- ・キャリアマップ
- ・ジョブディスクリプション
- ・キャリア面談 など



社内ポータルサイトでは、キャリア支援施策の一環として様々な分野で活躍している社員のキャリアストーリーを公開中。多様なキャリアパスを考えるきっかけになっています。



2 多様で柔軟な働き方の実現—働きやすい職場環境づくり

コングレは、多様で柔軟な働き方を推進しています。性別に関係なく育児や介護と仕事を両立できる職場環境の構築を目指し、フレキシブルな勤務体系や在宅勤務制度を導入。これは業務効率化にも資する取り組みです。

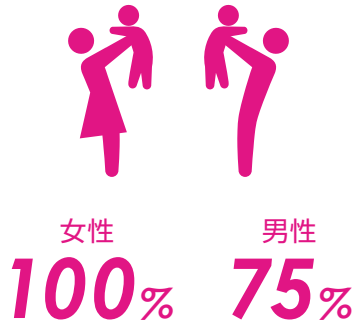
また、社員登用制度により、非正規雇用からの社員登用を積極的に推進しています。ジョブチャレンジ(社内公募)の活用で、自己のスキルや適性に合った挑戦も支援しています。

女性管理職比率



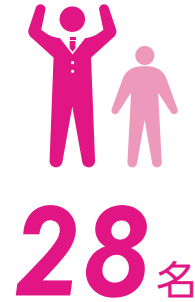
(2024年3月現在)

育休取得率



(2022年度実績)

非正規雇用からの社員登用



(2024年4月実績)

多様な働き方を支援する取り組み

時差出勤

通常の勤務時間とは異なる時間帯での出勤・退勤が可能です。交通渋滞や混雑を避けることができ、効率的な勤務につながります。

在宅勤務

仕事と個別事由による制約との両立やパフォーマンス向上を目指し、自宅での就業を可能にしています。

ジョブチャレンジ (社内公募)

自身の能力や興味に応じて他部署や他職種の業務に挑戦する機会を提供しています。

ジョブ・リターン

ライフステージ上のやむを得ない事情により退職した場合、当社での再就業を積極的に受け入れています。

勤務地の 変更

所定の勤務地での継続勤務が困難になる場合、他の勤務地での就業継続を希望できます。

※適用には条件があります。

妊娠・出産・育児に関する制度

育児短時間勤務制度

小学校3年生が終了するまでの子を養育する場合、1日の所定労働時間を最短5時間まで短縮することができる制度です。

所定外労働の制限

小学校3年生が終了するまでの子を養育する場合、所定外労働を制限することを請求できる制度です。

時間外労働の制限

小学校3年生が終了するまでの子を養育する場合、時間外労働を1月24時間、1年150時間以内に制限することを請求できる制度です。

深夜業の制限

小学校3年生が終了するまでの子を養育する場合、午後10時から午前5時の深夜業を制限することを請求できる制度です。

子の看護休暇 (無給)

小学校3年生が終了するまでの子を養育する場合、1年に5日(子が2人の場合は10日)まで、病気・けがをした子の看護又は子に予防接種・健康診断を受けさせるための休暇制度です。(時間単位の休暇も可)

育児時間(無給)

満1歳未満の子を養育する女性従業員が請求した場合は、休憩時間のほか1日2回少なくとも30分の育児時間を与える制度です。

※赤字は法定以上の制度設計となっています。

3 コミュニケーションの活性化で連携を強化—エンゲージメント向上にもつながる取り組み

オープンなコミュニケーション環境の構築を目指し、社員カフェや交流会、社員対象の親子プログラミング教室などのさまざまな交流イベントを開催しています。ここで生まれたつながりが、知見やアイデアの共有を促進し、イノベーションや協創機会になるとともに、エンゲージメント向上にもつながっています。



東京本社とその施設で働く社員とその家族を対象に、「親子プログラミング教室」と「オフィス見学ツアー」を開催。社員のコミュニケーションも活性化しました。



経営層と社員の座談会やランチ会を定期的に開催しています。参加者同士の交流を促進し、風通しの良い職場環境の構築につながっています。

4 組織全体でサステナビリティを学ぶ— 全社員研修で目指す持続可能な成長

コングレでは、全社員の意識向上を目的に、サステナビリティを学ぶ研修会を実施しています。社会課題に対する理解を深め、業務と社会貢献の結びつきを実感しながら、多様性を尊重し、包括的な職場文化を育むことを目指しています。

体験型SDGs研修

2022年度に全社員を対象とした体験型SDGs研修会を開催しました。カードゲーム「2030SDGs」を通じて、世界のつながりやSDGsの可能性を体感し、そこからの気づきを促すというもの。東京、大阪、名古屋、福岡などで全9回開催し90%を超える社員が受講しました。研修では、SDGsの17の目標と当社の事業内容を照らし合わせ、私たちが果たせる役割や課題を議論。SDGsというテーマを通じて、社会や仕事とのつながりを実感し、個人として、または企業として何ができるかを自分事として考え、行動を変容するよいきっかけになりました。また、部署を超えたコミュニケーションが活性化し、組織全体のエンゲージメントの向上にもつながっています。

体験型SDGs研修会は
基礎研修として継続開催中!

「2030SDGs 公認ファシリテーター」資格を社員が取得。新卒や中途採用社員全員に基礎研修の一環として継続して開催しています。



アンコンシャスバイアス研修



2024年1月全社員を対象にアンコンシャスバイアス研修を実施しました。無意識の偏見に気づき対応する手法を学ぶことで自身の可能性を広げるとともに、DE&Iへの理解を促進しました。同時にこの研修を通じて、社内外のコミュニケーションの重要性を再認識。多様性が活かされる包摂的な職場環境にもつながる取り組みとなりました。



全国から社員が集結—コングレ社員総会を開催

2024年1月にコングレが経営するMICE施設、コングレスクエア羽田で社員総会を開催しました。全社員が一堂に会し、会社の現状や将来のビジョンを共有。この共通認識は、持続可能な成長を支える組織文化の重要な基盤となります。当日は、階層別研修、羽田イノベーションシティ(HiCity)の視察ツアー、交流企画など多彩なプログラムを用意。これらを通じて社員間のコミュニケーションが活性化し、連携の強化にもつながりました。



コングレスクエア羽田のある「羽田イノベーションシティ(HiCity)」は、「『先端』と『文化』の境界を越えた交流を誘発し、新たな価値創造を実現する日本初のスマートエアポートシティ」です。視察ツアーや懇親会は、コングレスクエア羽田以外の施設や関係者のご協力も得て実現。HiCityの“まちづくり”に資する実証実験の意味合いも込められています。総会への参加が、次のイノベーションにつながることを目指した取り組みでもありました。



社員総会に合わせて開催した視察ツアーでは、自動運転バスの試乗など、HiCityの最新技術を体験



懇親会では、avatarin社の遠隔操作ロボット「newme」を活用。遠隔参加の社員ともコミュニケーション

公正な業務慣行・対話を通じた積極的なパートナーシップの構築



ISO 20121 認証取得

コングレは法令、社会規範およびその精神を遵守し、高い倫理観を持って業務に取り組んでいます。

公正な事業慣行は、企業が最低限果たすべき社会的責任であると認識し、コンプライアンスを徹底するとともに、積極的な対話により、ステークホルダーの皆さまとのより良いパートナーシップ、協創環境の構築を通じて、社会課題解決に貢献していきます。



私たちの取り組み指針

- 公正な業務慣行の徹底、関連認証の適切な運用を推進します。
- サプライチェーン全体の持続可能な成長を目指した積極的な対話によるパートナーシップを促進し、協創環境の構築を目指します。
- 国内事業所における環境負荷の少ない物品の優先購入、省エネ対策、環境負荷軽減等の取り組みや、社会貢献活動を推進します。

主なサステナブルアクション

1 パートナーシップ構築宣言 — 持続可能な協創環境構築の推進

「パートナーシップ構築宣言」は、企業の代表者が「発注者」側の立場から、サプライチェーンの取引先や価値創造を図る事業者の皆さまとの連携・共存共栄を進め、新たなパートナーシップを築くことを宣言する取り組みです。この宣言には、サプライチェーン全体の共存共栄と規模や系列を超えた新たな連携を促進すること、そして親事業者と下請事業者との望ましい取引慣行を守り、各企業の取り組みを透明化することが含まれています。コングレは、サプライチェーン全体の共存共栄を推進し、パートナーシップ構築宣言の理念に則った協創環境の構築を推進していきます。



MICEイノベーション研究会

MICEイノベーション研究会は、コングレが新産業文化創出研究所(ICIC)とともに立ち上げた協創プラットフォームです。「MICEと施設の新しいカタチを創造する」をテーマに、MICE関係事業者の課題に対し、異分野・異業種からの事業アイデアやサービス・ツールによる解決策の提案を募り、協創を促進。MICE業界のイノベーションを目指す取り組みです。



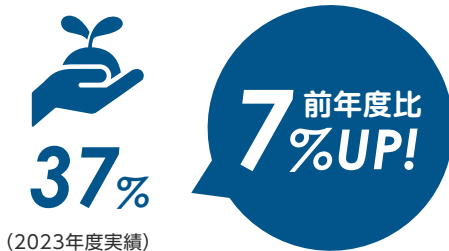
第22回MICEイノベーション研究会は、ポートメッセなごや(名古屋国際展示場)をフィールドに技術・サービス・事業アイデアを競う『IDEA PITCH CONTEST』の最終選考会として開催。多数のエントリーの中から最優秀賞に選ばれたAIビーコンを活用した事業には費用を補助し導入を支援。実証実験中です。



2 国内事業所における環境負荷軽減の取り組みーグリーン購入の推進

当社は、業務遂行および、製品・サービスのために使用する物品購入において、環境に配慮した物品の優先購入(グリーン購入)の基本方針を定め、推進しています。環境負荷の軽減を図るとともに、循環型社会を目指しています。

全国のオフィスにおけるグリーン購入率



賞味期限の近くなった災害備蓄品などはフードバンクに寄付。廃棄物の削減と社会貢献を

3 公正な業務慣行の徹底、関連認証の適切な運用の推進

コングレは法令、社会規範およびその精神を遵守し、より高い倫理観を持って業務に取り組んでいます。関連する様々な認証を取得し、e-ラーニングの実施などにより、従業員への浸透を図っています。公正な業務慣行は、企業が最低限果たすべき社会的責任であると認識し、コンプライアンスを徹底しながら、事業を推進します。

●ISO14001の適用事業所

東京本社、大阪本社、中部支社、九州支社、北海道支社、東北支社

●ISO20121の適用事業所

東京本社、大阪本社、中部支社、九州支社、北海道支社、東北支社、
ナレッジキャピタル コングレコンベンションセンター、
コングレスクエア日本橋、コングレスクエア羽田、コングレスクエア大阪中之島



4 BCP(事業継続計画)の重要性と取り組み

自然災害や大火災、テロ攻撃などの緊急事態に備え、事業の中核を守り、従業員や関係者の安全を確保しつつ、事業継続や早期復旧を可能にするための計画であるBCP(事業継続計画)は、企業にとって欠かせないものです。コングレは、専門コンサルタントの支援のもと、BCPを策定。適切な対応ができるよう、定期的に訓練を実施しています。



BCP演習の様子



MICEイノベーションファンドーパートナーシップと社員のチャレンジを支援する取り組み

コングレでは2021年度より『MICEイノベーションファンド』を毎年開催しています。これは、MICEにかかる新技術の導入や課題解決につながる斬新なアイデア、SDGsに資する取り組みや新規事業企画案を社内でも募集し、優れた提案に導入費用を補助する制度です。予算制約などで導入が難しかった取り組みが実現し、新たな協働やイノベーション機会の創出につながっています。社内公募制での取り組みは同時に、社員のエンゲージメントの向上やオープンな社内風土の醸成にも寄与します。

